



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ミヤマアカネ

学名:*Sympetrum pedemontanum elatum*

アカトンボとは、*Sympetrum*属（和名はアカネ属）というグループに属するトンボの仲間で、成熟した雄は赤くなるものが多いので、アカトンボと呼ばれます。しかし、赤ければすべてアカトンボというわけではありませんし、赤くならないアカトンボも多数います。

アカトンボの仲間は広島県では16種が記録されていますが、2種は迷入種といって、台風などによって大陸から迷い込んだもの、1種は既に絶滅したと考えられます。し

たがって、現在県内に定着しているのは13種です。その中でミヤマアカネは遠目でもすぐにわかる特徴があります。それは、透明なはねの先の方に褐色の帯があることです。はねの先端だけが褐色になるアカトンボは何種類かいますが、このようにはねの途中に紋があるのはアカトンボではミヤマアカネだけです。

アカトンボは止水といって、水田や池といった流れのほとんどない場所で幼虫が生活しますが、ミヤマアカネだけは用水路や緩やかな細流など、流水域で幼虫が育ちます。一時期減少していましたが、現在では多少復活しつつあるようで、河川中流域で河川周辺の開けた草地で見かけるようになりました。



【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

